



# 時中堂だより

第6号（通算第16号） 平成28年12月22日（木） 発行：岩手県立花巻南高等学校 文責：遠藤

## 保護者の皆様へ

今年も残すところあと10日となりました。先般の動画流出事案に際しては大変ご心配をおかけいたしました。お陰様で、校内は落ち着きを取り戻しております。保護者の皆様には一方ならぬご協力をいただき、本当にありがとうございました。

今後とも、お子様の明るく健全な高校生活のために、保護者の皆様と連携を強化してまいりたいと存じます。ご心配等ある場合は、ご遠慮なく学校までご相談ください。

一人ひとりが豊かな人間性を育み、夢を育てて実現させることを目指して、教職員一同誠心誠意努力してまいります。今後ともご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 生徒の皆様へ

10月後半から、花南生にとって苦しい日々がありました。大きな心の痛みを抱えた人もいた中で、花南生は互いに思いやりを忘れず、頑張ってくれました。あの時ほど君たちを頼もしく感じたことはありません。全校生徒のしっかりした態度が、花南の危機を支えてくれました。今、君たちの心には平穏が戻っているのでしょうか？ 困っていることはありませんか？ 私たち花南の教員はいつでも君たちのそばにいます。何かあったら遠慮せず声をかけてください。

年末を迎えた今、もう一度気持ちを引き締めましょう。そして未来に向けて、強い決意で前進していきましょう。希望溢れる新年が、もうそこまで来ています！

## 1年を振り返って



大変なこともありました。全体として例年以上に実り多い2016年でした。様々な分野における生徒諸君の努力を、心からたたえたいと思います。

部活動においては、まず運動部が高総体を始め様々な大会で例年を上回る活躍をしました。また今年は希望郷いわて国体があり、選手として、補助員として、様々な場面で頑張ってくれた生徒諸君がいました。文化部も、例年の大会等に加えて花巻地区が岩手県高等学校総合文化祭総合開会式を担当し、素晴らしい成果を上げました。様々なボランティア活動や国際交流においても、花南ならではの取り組みが光りました。中心となった3年生諸君、本当にありがとうございます。君たちの3年間の努力は、花南の歴史にしっかりと残るに違いありません。1、2年生諸君、先輩の思いを引き継いで頑張ってください。

過日の三者面談では、1年生は来年度の学系・コース選択、2年生はより具体的な進路選択が中心的な話題となったようです。また多くの3年生にとって、この冬は進路目標達成をかけた正念場です。頑張っている3年生の夢実現を心から願います。そして既に進路が内定した3年生には責任と誇りを持って卒業までの大切な日々を過ごすことを期待します。

学習と部活動を軸に充実した高校生活を送り、一人ひとりが夢を叶える花巻南高校、そして文武両道に活躍する花巻南高校を目指して、今後ともしっかりと歩みを進めていきましょう。



## 鳴尾直軌氏が来校しました～アスレティックトレーナー派遣事業～

21日、アルビレックス新潟シンガポール監督の鳴尾直軌氏（岩泉町出身、プロサッカー選手としてジュビロ磐田やサンフレッチェ広島等で活躍、前グルージャ盛岡監督）が来校し、スポーツ健康科学学系1・2年生を対象に講演をしていただきました。プロスポーツの世界における経験と実績に裏打ちされたお話でした。ほんの一部ですが、ご紹介します。

**チームと個人** 強いチームにするためには、チームも個人も常に向上心を持ってチャレンジする集団であることが大切です。個人のステップアップにはチームの勝利が必要不可欠だし、チームの勝利には個人の活躍が不可欠です。チームだけでも、個人だけでもいけない。

**プレーと日常はつながっている** プレーを変えたければ日常を変えることです。1日のうちで練習している時間としていない時間を比べたら、練習以外の時間の方が当然長い。勉強や掃除といった日常の取り組みが、結果につながるのです。

今回の講演は、スポーツに関わる人材育成を目的とした県の事業として実施されたもので、生徒諸君はおおいに刺激を受けたようです。サッカーに限らず、運動部全般に通じる内容ですし、文化部においても、「チームと個人」「プレーと日常生活はつながっている」という意識は、大きなヒントになるでしょう。

## “Love trumps hate.” ～愛は憎しみに勝つ～

この言葉が日本で話題となったのはアメリカ大統領選挙の後でした。クリントン氏を支持したレディー・ガガさんがトランプ・タワーの前に立ち、“Love trumps hate.”と書いたプラカードを持って抗議の意志を示したという出来事です。これを報道した日本のテレビ番組で「トランプは嫌い」という字幕が流れました。“trump”はトランプ氏の姓と同じ語ですが、ここでは「打ち負かす」意の動詞で、「愛は憎しみに勝つ」などと訳せます。なぜか誤訳の字幕が流れ、他の誤訳(?)も出回って、ちょっと騒ぎになりました。しかし、私が興味を持ったのは誤訳の話ではなく、「愛は憎しみを打ち負かすのだ」という考え方そのものでした。

“Love trumps hate.”は、クリントン氏が選挙直前の演説で訴えた言葉でもありました。またそれ以前に、民主党候補者を決める予備選挙でサンダース氏が選挙CMのテーマとしたのが“Love trumps hate.”でした。アメリカの全人口の1%の富裕層がそれ以外の99%より多い資産を持つという格差社会、人種や宗教や性による差別、これに対する苦悩と怒りが映像で表現され、タイトルは“Love trumps hate”。印象的なCMです。社会の矛盾は正さなければならない。しかし、排斥や攻撃で解決するのは間違っているというメッセージでした。

政治そのものについて、残念ながら語り得る知識はありません。ただ思うのは、何であれ“hate”で動きたくはないなあということです。近年、世界中で“hate”が目立ちます。移民に仕事を取られるから排除する、人種や宗教の違いで排斥や攻撃をする、こういう“hate”が幸せな社会を作るとは思えません。“hate”を乗り越えることが必要であるように思います。

日常的なことに置き換えてみると、“hate”は他人を傷つける以上に自分を傷つけます。憎しみや嫌悪といった負の感情に支配されると、実は相手以上に自分が苦しい。心に負の感情が芽生えたら、それ以上に大きな愛を持ちたいものだと思います。「愛は憎しみに勝つ」「愛は嫌悪に勝つ」のです。もっと他にも考えられますね。「希望は嫉妬に勝つ」「夢は不安に勝つ」「努力は焦りに勝つ」等々。何だか勇気が湧いてくる気がします。

つらくなった時、そっとつぶやいてみませんか？

“Love trumps hate.”

